

2025年度 事業報告書

2025年4月1日～2026年3月31日

I	2025年度事業報告 事業の体系図	1
II	2025年度事業報告一覧	2

公益財団法人いわさきちひろ記念事業団



事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期	実施場所
公1 絵本美術館の設置運営					
ア 絵本等に関する展覧会、講演会、ギャラリートーク等の開催					
■ちひろ美術館・東京での展覧会、講演会、ギャラリートーク等					
【いわさきちひろ展】	ちひろのアルバム	ちひろが遺した60冊以上にのぼるアルバムには、生後から晩年までのちひろの姿が収められている。アルバムの写真とともに作品を見ると、日々の暮らしと創作が密接に関わっていたことがわかる。本展では、2024年までに取り組んだ写真のデジタルデータアーカイブと「いわさきちひろ 写真資料目録」刊行の成果をもとに、貴重な写真資料を新規収蔵を含めた作品とともに展示し、ちひろの創作の源を探った。	10,029名	3月1日～5月11日	ちひろ美術館・東京
	アンデルセン生誕220年 ちひろと見つめるアンデルセン	2025年は、H.C. アンデルセンの生誕220年。ちひろはアンデルセンの童話を題材とした絵の制作にくりかえし取り組み、物語をいかに表現するか工夫を重ねた。その原動力には、時代や場所を超えて普遍的な人間の心情を描き出しているアンデルセンへの共感と尊敬があった。本展では、ちひろの絵やことばを通して、アンデルセンの童話や人物の魅力を紹介した。	6,518名	5月16日～7月21日	ちひろ美術館・東京
【企画展】	西巻茅子 はじめての絵本 『ポタンのくに』そして『わたしのワンピース』	西巻茅子（1939-）は、のびのびとした線と色で心をこめて絵本を描き、多くの子ども読者たちに支持されている。本展では、新規収蔵作品である最初の絵本『ポタンのくに』（1967年・こぐま社）と、ベストセラーとなった3作目の絵本『わたしのワンピース』（1969年・こぐま社）のリトグラフや資料を展示し、制作過程の映像とともに、西巻茅子の絵本づくりの魅力に迫った。	(10,029名)	3月1日～5月11日	ちひろ美術館・東京
	ヒロシマ・トマト 司修展	司修（1936-）は、画家、絵本作家であると同時に、文筆家や装丁家としても知られている。幼少期を戦争のなかで過ごした司修は、戦中戦後に刻まれた生々しい記憶を原動力としながら、問題意識を抱えて、折々に感じるものをさまざまな形で表現し続けてきた。本展では『まちゃんと』（松谷みよ子文 偕成社）などの戦争を描いた作品を中心に、初期から近作までの司修の作品を紹介した。	(6,518名)	5月16日～7月21日	ちひろ美術館・東京
	戦後80年 ちひろと世界の絵本画家たち 絵本でつなぐ『へいわ』	日本の敗戦から80年。戦争を経験した作家や画家たちは、二度と戦争を繰り返してはならないという切実な思いを絵本にこめた。その思いは次の世代、さらにその次の世代の絵本の作り手たちにも受け継がれ、子どもたちの心にたくさんの平和の種をまいてきた。本展では、ちひろや世界の絵本画家たちが平和への思いを込めて描いた絵本を、画家からのメッセージとともに紹介した。また戦後出版された絵本のなかから「平和を考える絵本150冊」を選書して展示室や図書室で紹介し、リストを公開した。	10,028名	7月26日～10月26日	ちひろ美術館・東京
	装いの翼—いわさきちひろ、茨木のり子、岡上淑子の美と自由	いわさきちひろ（1918-1974）、茨木のり子（1926-2002）、岡上淑子（1928-）は、第二次世界大戦後、それぞれ絵本画家、詩人、美術家として独自の表現を切り拓いた。新聞記者、作家である行司千絵氏の著書『装いの翼おしゃれと表現と—いわさきちひろ、茨木のり子、岡上淑子』（岩波書店）をもとに、「装い」をテーマに3人の女性作家の素顔に迫った。それぞれの作品とことば、愛用の品や写真などを展示し、三者三様の美意識や生き方と、自由と平和を求めるとの共通の思いを浮き彫りにした。	9,547名	10月31日～2026年2月1日	ちひろ美術館・東京
【講演会】	スライドトーク 写真から見るいわさきちひろ	「ちひろのアルバム」展に関連し、膨大な写真資料の整理を通して明らかになった、ちひろの創作と生活の密接な結びつきについて、アーカイブ担当者が紹介した。	計56名	3月20日、29日	ちひろ美術館・東京
	「西巻茅子 はじめての絵本『ポタンのくに』そして『わたしのワンピース』」展関連 西巻茅子講演会	「西巻茅子 はじめての絵本『ポタンのくに』そして『わたしのワンピース』」展に関連し、西巻茅子が自作について語った。	会場：45名、 オンライン：211名	4月6日	ちひろ美術館・東京／オンライン オンデマント配信
	「ヒロシマ・トマト 司修展」関連 司修講演会「ヒロシマ・トマト」	「ヒロシマ・トマト 司修展」に関連し、司修が広島原爆を描いた『まちゃんと』を中心に、自作について語った。	51名	6月29日	ちひろ美術館・東京
	「絵本でつなぐ『へいわ』」展関連 アーサー・ピナード講演会「時計をどこまで巻き戻せばいいのかわか？」	「絵本でつなぐ『へいわ』」展に関連し、7月25日に出版された、『1945年8月6日 あさ8時15分、わたしは』（童心社）に文章をよせている、詩人のアーサー・ピナードが平和やちひろへの想いを語った。	会場：42名、 オンライン：235名	8月3日	ちひろ美術館・東京／オンライン オンデマント配信
	「絵本でつなぐ『へいわ』」展関連 対談 武田美穂×松本猛「絵本は何をどこまで語る？」	「絵本でつなぐ『へいわ』」展に関連し、原画を展示している『ねんどの神さま』（那須正幹・文、ポプラ社）を描いた絵本画家の武田美穂が、自身の絵本づくりのことや、絵本を通して子どもたちに伝えていきたい平和について語った。	会場：40名、 オンライン114名	9月14日	ちひろ美術館・東京／オンライン オンデマント配信
	「絵本でつなぐ『へいわ』」展関連 内田麟太郎講演会「私の考える平和の絵本」	「絵本でつなぐ『へいわ』」展に関連し、戦時中に子どもの戦意高揚に利用された絵本や、戦後の本当の意味での平和の絵本について、詩人で絵詞作家の内田麟太郎が語った。	会場：37名、 オンライン：140名	9月28日	ちひろ美術館・東京／オンライン オンデマント配信
	「装いの翼」展関連 トークイベント「甥夫婦が語る素顔の茨木のり子」	「装いの翼」展に関連し、茨木のり子の甥である宮崎治と、その妻・薫が伯母との交流などを語った。聞き手：行司千絵	会場：36名、 オンライン171名	11月22日	ちひろ美術館・東京／オンライン オンデマント配信
【ギャラリートーク】	松本猛ギャラリートーク	いわさきちひろの息子・松本猛が、母の思い出や作品にまつわるエピソード、展示の見どころなどを語った。	各回20～30名	3月9日、5月31日、7月27日、12月21日	ちひろ美術館・東京
	行司千絵 特別ギャラリートーク	「装いの翼」展に関連し、『装いの翼おしゃれと表現と—いわさきちひろ、茨木のり子、岡上淑子』著者の行司千絵（新聞記者、作家）によるギャラリートークを行った。	27名	11月19日	ちひろ美術館・東京
	学芸員、普及担当者によるギャラリートーク	開催中の各展示の見どころ等を、作品を見ながら学芸員や普及担当者が解説した。	各回15～25名	月2回（第1・3土曜日）	ちひろ美術館・東京
■安曇野ちひろ美術館での展覧会、講演会、ギャラリートーク等					
【いわさきちひろ展】	ちひろの いろ せん かたち	やわらかな色彩で描いた子どもの絵で広く知られるちひろは、水彩絵の具の色使いはもちろん、線の表現や画面構成にも工夫を凝らして、新たな表現を追求し続けた。本展では、ちひろの技法を楽しく体験できるアートユニットplaplaのインタラクティブ作品《画机の上のあそび場》も取り入れながら、ちひろの色、線、形の表現や技法に注目した。	35,725名	6月6日～8月31日	安曇野ちひろ美術館

事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期	実施場所
【いわさきちひろ展】	ちひろ 本を読む人 描く人	ちひろは幼いころからさまざまな本を読み、戦後、子どもの文化として児童書や絵本が発展していくなかで画家として活躍した。彼女の若いころの読書体験で得た感動は、その制作に生かされている。本展では「本」を読み継ぐこと、描くことについて、ちひろの絵や絵本を通して考えた。	21,597名	9月5日～11月9日	安曇野ちひろ美術館
	ちひろの人生	ちひろの人生を紹介するパネルや資料により、ちひろの絵と人生、人柄などを伝えた。2022年から続くウクライナでの戦争を受け、1963年のソビエトの旅でちひろがキエフを描いたスケッチなどを展示し、ちひろの平和への願いを伝えた。		通年	安曇野ちひろ美術館
	子どもの展示室「トットちゃんの部屋」	『窓ぎわのトットちゃん』（講談社）に登場する電車の教室の一部再現や、ちひろの絵で楽しむトットちゃんの話、トモ工学園の紹介など、トットちゃんの世界を子どもたちの目線で楽しむことのできる展示を行った。		通年	安曇野ちひろ美術館
	《だぁ・いー・あ！ローグ》	声や音を出すと、ちひろが好んで使った水彩絵の具のにじみやパステルの線があらわれるインタラクティブ作品《だぁ・いー・あ！ローグ》を、多目的展示ホールに展示した。		通年	安曇野ちひろ美術館
【世界の絵本画家コレクションの展示】	ちひろ美術館コレクション展 もようをみよう	動物の模様や衣装の模様、装飾的な飾り罫など、ちひろ美術館コレクションの作品に描かれたさまざまな「模様」に注目し、展示を行った。	(35,725名)	6月6日～8月31日	安曇野ちひろ美術館
	ちひろ美術館コレクション展 アンデルセンの絵本	アンデルセンの生誕220年を機に、ちひろ美術館コレクションのなかから「雪の女王」や「すずの兵隊」など、アンデルセンの物語を描いた作品を集め紹介した。	(21,597名)	9月5日～11月9日	安曇野ちひろ美術館
【企画展】	戦後80年 ちひろと世界の絵本画家たち 絵本でつなぐ「へいわ」	ちひろ美術館・東京 7月26日～10月26日開催内容に同じ。	19,867名	3月1日～6月1日	安曇野ちひろ美術館
	てなわで20年。魅惑のチョウ、シタ展	ナンセンスの王様とも称される長新太(1927-2005)は、漫画、イラストレーション、絵本など、多彩な分野で活躍した。独特なユーモアに満ちた作品は、没後20年経った今も、幅広い世代を魅了している。ちひろ美術館では、2001年より繰り返し長新太の展覧会に取り組み、その作品を紹介してきた。本展では、魅力的なキャラクターが登場する作品や奇想天外な展開をみせる絵本などを展示し、長新太の魅力を紹介した。	(35,725名)	6月6日～8月31日	安曇野ちひろ美術館
	ヒロシマ・トマト 司修展	ちひろ美術館・東京 5月16日～7月21日開催内容に加え、『河原にできた中世の町』（岩波書店）を展示した。	(21,597名)	9月5日～11月9日	安曇野ちひろ美術館
【絵本の歴史展示】	絵本の歴史	「死者の書」や時禱書、絵巻物から現代の絵本にいたるまで当館のコレクションをもとに絵本とイラストレーションの歴史を、「手描き本の時代」「版本の時代」「子どもの本の時代（印刷本）」に分けて紹介するほか、「戦時下の子どもの本」も展示した。		通年（会期ごとに入れ替え）	安曇野ちひろ美術館
【講演会】	「ヒロシマ・トマト 司修展」関連 司修講演会「ヒロシマ・トマト」	「ヒロシマ・トマト 司修展」に関連して、司修が広島原爆を描いた『まちんと』を中心に、自作について語った。	52名	10月4日	安曇野ちひろ美術館
	松本猛講演会「絵本とは何かー起源から表現の可能性まで」	新刊『絵本とは何かー起源から表現の可能性まで』（岩波書店）の内容を中心に、著者の松本猛（ちひろ美術館常任顧問）が絵本について語った。	会場：37名、 オンライン：168名	11月3日	安曇野ちひろ美術館
【ギャラリートーク】	学芸員、普及担当者によるギャラリートーク	開催中の各展示の見どころを、学芸員や普及担当者が解説した。	計194名	月1回（第3土曜日）	安曇野ちひろ美術館
■他館と提携する展覧会、講演会、ギャラリートーク等					
【展覧会】	いわさきちひろ×plaplax あれこれいのち	ちひろの作品（原画33点・ピエゾグラフ37点）や遺品13点とplaplaxのインタラクティブ作品《絵の具の足あと》《あちこちスケッチ》《いずみ》《絵をみるための遊具》などによる、「自然」をテーマとした展覧会を開催した。	9,703名	4月3日～5月18日	明石市立文化博物館（兵庫県明石市）
	いわさきちひろ 生誕地・武生 ピエゾグラフ展	いわさきちひろ生誕の地で、テーマに即してちひろの作品をピエゾグラフで紹介した。 ①春のよろこび ②ちひろの願い ③ちひろとアンデルセン ④冬のよそおい	計4,044名	①3月15日～6月2日 ②6月14日～9月1日 ③9月13日～12月1日 ④12月13日～2026年3月2日	「ちひろの生まれた家」記念館（福井県越前市）
	ピエゾグラフ作品によるいわさきちひろ展「花と子ども」	季節の花と子どもを描いた代表作や花とあかちゃん、絵本『おやゆびひめ』など、ちひろの作品30点をピエゾグラフで紹介した。	13,277名	3月29日～5月6日	ミツカンミュージアム（愛知県半田市）
	ピエゾグラフ作品によるいわさきちひろ展「窓ぎわのトットちゃん」	黒柳徹子は自らの戦争体験を伝えたいと2023年に『窓ぎわのトットちゃん』の続編を発表した。戦後80年にあたり、本編と続編、絵本版に収録されたちひろの作品30点を、物語のエピソードとともにピエゾグラフで紹介した。	12,089名	9月13日～10月26日	
	出久根育展 チェコからの風 静寂のあと、光のあさ	出久根育『あめふらし』（偕成社）5点、『マーシャと白い鳥』（偕成社）10点を展出した。	4,169名	4月17日～6月16日	公益財団法人おかや文化振興事業団 イルフ童画館（長野県岡谷市）
	自由いっぱい！奇想天外！長新太 ナンセンス・ワールド	没後20年となる長新太の展覧会を、開催館と協力して行った。	23,625名	7月12日～9月28日	福井県ふるさと文学館（福井県福井市）
	戦後80年・ベトナム戦争終結50年 立命館大学国際平和ミュージアム秋季特別展 反戦のプリズム	ちひろのピエゾグラフ4点、ベトナムの子供を支援する会反戦野外展パネルの複製29点、反戦バッグ1点を展出した。	5,937名	11月1日～12月25日	立命館大学国際平和ミュージアム（京都府京都市）
【講演会】	鷺谷いづみ講演会「あれ・これ・いのち：水辺と野」	展覧会「いわさきちひろ×plaplax あれこれいのち」に関連し、展覧会協力者・鷺谷いづみ（東京大学名誉教授）による講演会を行った。	70名	4月12日	明石市立文化博物館

事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期	実施場所
【ギャラリートーク等】	ちひろ美術館学芸員によるギャラリートーク	「花と子ども」の展覧会の見どころを、担当学芸員が解説した。	計112名（8回）	3月29日、4月26日	ミツカンミュージアム
		「いわさきちひろ×plaplax あれこれいのち」展に関連し、担当学芸員が解説した。	33名	4月3日	明石市立文化博物館
		「窓ぎわのトットちゃん」の展覧会の見どころを、担当学芸員が解説した。	計72名（8回）	9月13日、10月18日	ミツカンミュージアム
	ちひろの水彩技法ワークショップ	展覧会に関連し、ちひろの技法を体験するワークショップを行った。	計59名（4日）	3月29日、4月13日、4月27日、5月5日	ミツカンミュージアム
			26名	4月26日	明石市立文化博物館
			計271名（7日）	9月14、21、28日、10月5、12、19、26日	ミツカンミュージアム

イ 絵本等に関する作品・資料の収集・保存、並びに調査・研究

作品・資料の収集	絵本原画、関連資料等の収集	いわさきちひろの作品15点（購入1点、返却12点、寄贈2点）、ザ・キャビンカンパニーの原画38点（購入）、カミラ・シュタントロヴァー（スロバキア）の版画2点（寄贈）、長新太の作品165点（寄託）を新規に収集した。		通年	両館
	絵本と絵本の歴史資料の収集	未来に継承すべき優れた芸術性を持つ絵本の資料・絵本の歴史資料の収集を進めた。		通年	両館
	絵本、関連書籍等の収集	戦争や平和を考える絵本や、コレクション画家の手がけた絵本、展示関連の絵本等の収集を進めた。		通年	両館
作品・資料の保存	作品・資料の保存管理	絵本原画を中心とした収蔵作品の適切な保存管理を行なうとともに、画像データベース等での作品整理を進めた。		通年	両館
	作品・資料のデジタル・アーカイブズ	いわさきちひろ作品（ビエゾグラフ4点/追加出力3点/複製画14点/スキャニング1点）のデジタル・アーカイブズを、災害時対応にも備えつつ、進めた。		通年	両館
	作品・資料の修復	いわさきちひろ作品や世界の絵本画家作品、資料等の修復作業を適宜行った。		随時	両館
作品・資料の調査・研究	コレクション作家等の調査・研究	展覧会に関連し、西巻茅子、司修、長新太等のコレクション作品の表現・技法、作家の人生、芸術観、時代背景等について、調査・研究を行った。		通年	両館
	作品・資料等のアーカイブズ	作品、図書、遺品、その他資料のデータ整備ならびにデータベース登録を進めた。そのうち、ちひろ作品9,650点の文字情報を全国美術館収蔵品サーチ「SHŪZŌ」（運営：国立アトリサーチセンター）に登録し、2025年12月より初めて公開が始まった。いわさきちひろの残したことばを整理、分類し、デジタル化とデータベースへの登録準備、ならびに「ちひろのことば目録」の編集作業を進めた。2027年の開館50・30年の周年誌編纂にむけ、当財団のこれまでの活動記録を整理し、デジタル化を進めた。		通年	両館
	絵本とイラストレーションの歴史の調査・研究	絵本とイラストレーションの歴史に関する資料の整理、調査・研究を進めた。		通年	両館
	絵本等に関する調査・研究	新旧の絵本の表現、テーマ、絵本の造形について、外部の研究者とも連携しながら調査・研究を進めた。		通年	両館
作品・資料の調査・研究	研究成果の公開 公式サイトでの作品、展示解説掲載	調査、研究の成果を展覧会等に活かすとともに、作品解説、展示解説等にまとめ、逐次、公式サイトで公開し、国内外にむけて発信した。		通年	両館
	研究成果、活動成果の公開 「美術館だより」の発行（展示会期ごと）	研究や活動の成果を、展示紹介、活動紹介等にまとめ、展覧会にあわせて発行する「美術館だより」や公式サイトを通じて、公開した。		通年	両館

ウ 絵本等に関する教育活動

ワークショップ・講座の開催	ワークショップ ちひろの水彩技法体験	ちひろの水彩技法の特徴のひとつである「にじみ」を使って、実際に作品を制作するワークショップを行った。	計200名	3月22日、3月23日、8月20日、8月21日	ちひろ美術館・東京
			21名	9月28日	安曇野ちひろ美術館
		「NPO法人障がい児・者の学びを保障する会」が主催する「令和7年度 学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」成果報告会で、ちひろの水彩技法を体験し缶バッジをつくるワークショップを行った。	29名	2月7日	練馬区役所・多目的会議室（東京都練馬区）
	いわさきちひろ アトリエ&ガーデントーク	展覧会「ちひろのアルバム」に関連し、ちひろのアトリエと庭についてトークを行った。	計26名	3月16日、4月20日	ちひろ美術館・東京
	親子で楽しむ文化講座 わらべうたあそび	0、1、2歳の乳幼児とその保護者を対象にした、わらべうたあそびの会を開催した（講師：服部雅子・西東京市もぐらの会代表、はとさん文庫主宰）。	計52名	4月5日、9月20日、11月1日	ちひろ美術館・東京
	ぬいぐるみお泊り会	展覧会「西巻茅子 はじめての絵本『ポタンのかに』そして『わたしのワンピース』」に出品された『ポタンのかに』の主人公がぬいぐるみであることに関連し、読み聞かせとギャラリートークの後、持参したぬいぐるみを預かる「お泊り会」を行った。	8名	4月13日～4月25日	ちひろ美術館・東京
絵本でつなぐ「へいわ」展関連 映画上映会	「絵本でつなぐ『へいわ』」展に関連し、映画「窓ぎわのトットちゃん」の上映会と八鍬新之助（アニメーション監督）のトークを開催した。（松川村図書館との共催事業）	計738名	5月9日、5月10日	松川村立松川中学校、松川村すずの音ホール	

事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期	実施場所
ワークショップ・講座の開催	紙芝居で楽しむアンデルセン童話	展覧会「アンデルセン生誕220年 ちひろと見つめるアンデルセン」に関連し、ちひろの紙芝居を解説とともに演じた。	25名	6月15日	ちひろ美術館・東京
	ちひろ忌	ちひろが亡くなった8月8日にあわせて、ちひろのこぼれカードの配布、ギャラリートーク、アトリエ&ガーデントークなどを行い、ちひろの業績や人生を伝えるとともに、世界中の子どものしあわせと平和を願ったちひろの思いを、来館者とともに考える機会とした。	115名 391名	8月8日	ちひろ美術館・東京 安曇野ちひろ美術館
	あかちゃんと保護者のための鑑賞会	乳幼児とその保護者を対象に、子どもといっしょに美術館を楽しめるファーストミュージアムデーを開催し、展示を中心に館内各所での鑑賞会や、絵本の読み聞かせ、ふれあい遊びを行った。	計18名 計34名	11月19日 4月12日、11月19日	ちひろ美術館・東京 安曇野ちひろ美術館
	ちひろの絵による『窓ぎわのトットちゃん』ワークショップ	『窓ぎわのトットちゃん』のさまざまなエピソードに関連したワークショップ等を、地域の人々や地元の学校の協力を得て、開催した。		随時	安曇野ちひろ美術館、安曇野ちひろ公園
	地元中学校との提携活動—中学生ボランティア	キャリア教育の一環として、松川村立松川中学校と連携し、29名の中学生ボランティアが、来館者が参加する水彩技法ワークショップのサポートを行った(①)。また26名の中学生ボランティアが来館者を対象に絵本の読み聞かせを行った(②)。	①計113名 ②計194名	①8月3日、4日 ②8月6日、7日、9日	安曇野ちひろ美術館
学校との提携活動	出前授業、出前講座	ちひろの画業や絵の魅力を伝え、その技法を体験するワークショップを含めた出前授業、出前講座を、学校等に出向いて実施した。(オンライン含む)	88名	5月1日	長野県木曾青峰高校(オンライン)
			計136名	5月22日、5月23日、	練馬区立下石神井小学校
			計102名	9月8日、9月9日	杉並区立三谷小学校
			13名	12月14日	松本大学・松本大学松商短期大学部(会場:松川村すずの音ホール)
			38名	7月18日	清泉大学(長野県長野市)
			82名	12月18日	静岡大学(オンライン)
		安曇野市の美術館、博物館と連携し、「あづみの学校ミュージアム」を実施し、鑑賞授業を行った。	134名	2026年1月22日	安曇野市立穂高東中学校
	学校団体への各種教育プログラム	授業で来館する学校に対し、開催中の展覧会の鑑賞教育をはじめ、各種教育プログラムを行った。	計427名	3月10日、3月11日、3月12日、4月18日、5月30日、11月11日、2026年1月23日、1月28日、1月30日	ちひろ美術館・東京
			計638名	5月13日、5月23日、6月19日、6月23日、9月26日、10月3日、10月9日、10月20日、10月23日、2026年3月5日、3月7日、3月29日	安曇野ちひろ美術館
	教員向け内見会・内見週間の開催	教員を対象とする内見会・内見週間を開催、博学連携の活動を行った。	計48名	8月19日～8月24日	ちひろ美術館・東京
計4名			9月20日～10月5日	安曇野ちひろ美術館	
博物館実習生の受入	全国の大学で学芸員課程を受講している学生から、当館で博物館実習を希望する者を受け入れた。	4名	8月19日～22日、8月26日	ちひろ美術館・東京	
		1名	8月3日～4日、9月16日～20日	安曇野ちひろ美術館	
職場体験実習の受入	練馬区近辺、松川村近辺の中学・高等学校からの職場体験実習を受け入れ、美術館業務の体験を提供して博学連携の活動とした。	計4名	9月25日～26日、11月19日～21日	ちひろ美術館・東京	
		計4名	7月24日～25日、28日～29日	安曇野ちひろ美術館	

工 絵本等に関する普及活動

絵本等の公開・閲覧	両館での絵本図書室・絵本カフェによる絵本の公開・閲覧	長きに渡って愛され続ける絵本とともに、新刊等幅広い国内外の絵本を、絵本の専門美術館としての視点で選書し、芸術性に優れた魅力的な絵本を配架し、両館の絵本図書室・絵本カフェ等での閲覧に供した。		通年	両館
-----------	----------------------------	--	--	----	----

事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期	実施場所
絵本等の紹介活動	コレクション画家をはじめ、世界の優れた絵本画家たちの絵本等の紹介、頒布、レファレンス、読み聞かせ指導、読書指導	当館の視点で選書した国内外の絵本を、絵本図書室、公式サイト等で紹介、普及、頒布するほか、絵本の選び方や読み聞かせの方法等、来館者をはじめ、幅広い求めに応じて、適宜、選書や読み聞かせの方法等についてアドバイスを行い、日々の暮らしのなかで身近に絵本を楽しめるよう支援した。		随時	両館
読み聞かせ会	絵本のじかん（絵本の読み聞かせ）、絵本の広場等の開催	絵本の理解を深め、展示鑑賞をより充実したものとするため、両館それぞれで、定期的に絵本の読み聞かせ会を開催する。また同様に、学校・保育園等の団体鑑賞の希望に際して、読み聞かせを行った。	全21回計364名	毎月第2・4土曜日	ちひろ美術館・東京
			全13回計293名	毎月第1土曜日、6月14日、8月23日、8月26日、10月9日、2026年3月29日	安曇野ちひろ美術館
	各地の自治体、地域、団体との提携による、複製画展等の開催	各地の自治体、地域、団体等の求めに応じて、複製画展や関連の講演会を開催するとともに、絵本に親しむ機会を設け、読み聞かせ会等を実施した。	26,653名	11月2日～11月30日	塩尻市市民交流センター（えんぱーく）（長野県塩尻市）
			3,274名	11月29日～12月21日	国営アルプスあづみの公園 堀金・穂高地区（安曇野市）
地域・団体との提携による複製画展			500名	5月17日～6月30日	暮らしの良品 いけだ（福島県福島市）
			577名	前半：7月15日～7月21日 後半：7月22日～8月15日	前半：平塚市美術館市民アートギャラリー 後半：平塚市役所多目的スペース（神奈川県平塚市）
			289名	7月23日～8月3日	日進市図書館（愛知県日進市）
	施設・団体・学校との提携による、平和のパネル展の開催	ちひろの平和への願いを伝えるために、平和の絵本2冊のパネルを、希望する施設・団体・学校に貸し出した。	230名	8月29日～9月13日	太陽の子保育園・けま太陽の子保育園・杉の子保育園（兵庫県尼崎市）
			-	8月30日～10月1日	主婦会館（東京都千代田区）
			22,832名	10月17日～11月19日	港区立麻布図書館（東京都港区）
			120名	11月8日～11月20日	日野町立図書館（滋賀県蒲生郡日野町）
			1,496名	3月2日～3月15日	鷹野文化センター（埼玉県三郷市）
病院との提携活動	季節ごとの病院院内展示・ワークショップの開催	来館が難しい患者やその家族を対象に、病院内での複製画展を行うとともに、絵本に親しむ機会を設けた。		随時	東京女子医科大学病院、聖路加国際病院、長野県立こども病院、埼玉医科大学総合周産期母子医療センター、国立成育医療研究センター、同センター医療型短期入所施設「もみじの家」、富山県リハビリテーション病院・こども支援センター、聖マリアンナ医科大学病院

オ 絵本等に関する国際交流

海外における展覧会・講演会、ワークショップ	海外における、ちひろや日本の絵本展ならびに教育普及活動の展開	ちひろの作品や絵本、ちひろ美術館の活動の海外普及を行った。 インドネシアのジョグジャカルタにて開催されたGulari Festivalにて、Gulari Festival、TaCitaと共催で、いわさきちひろと当館コレクション画家のピエゾグラフ作品の展示「TANEM-TANEMAKI EXHIBITION（子どもたちのための芸術を祝うインドネシアと日本のアーティストによる交流展）」と水彩技法ワークショップ、紙芝居講座などを開催した。	ゲストブック記名者数860名	7月26日～8月3日	インドネシア
		来日したインドネシアのバンドン工科大学グラフィック科のリアマ・マスラン・シホンピン准教授と編集者のエヴェリン・ゴザリによる、インドネシアの絵本画家イバ・マルフとインドネシアの絵本の出版状況についてのトークを開催し、交流を深めた。		9月6日	安曇野ちひろ美術館
海外からの研修受入と交流	海外の絵本関係者の研修・交流	以下の絵本関係者の来館に対応し、交流を深めた。 ・エリック・カール絵本美術館 評議員カリン・ステイミー ・アイルランド生まれの絵本作家クリス・ホートン ・東南アジア（マレーシア、タイ、ベトナム、シンガポール）の若手児童書編集者たち ・インドネシアの編集者・翻訳家アンドリー・セティアワン ・エリック・カール絵本美術館 元評議員アンドレア・ピンクニー		6月15日、7月9日、9月18日、10月15日、11月25日	ちひろ美術館・東京
		スペインのイラストレーターアドルフォ・セラ氏の来日に伴い、2014年にちひろ美術館も参加したインドの子どもの本イベントBookarooに参加した画家たちと交流した。		2026年1月24日	ちひろ美術館・東京

事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期	実施場所
海外の関係機関とのネットワーク	コレクション画家たちとの交流	展覧会「戦後80年 ちひろと世界の絵本画家たち 絵本でつなぐ『へいわ』」に関連し、作品を出展している海外のコレクション画家たちに平和に関するメッセージを新たに依頼し、両館の展示やSNSで公開した。		3月～10月	両館
	館の多言語情報のより多面的な発信とコンテンツの充実	さまざまな国や言語の来館者に対応すべく、館や展示の紹介等を、印刷物、公式サイト、SNS、動画コンテンツなど多様な媒体を通して、魅力的効果的に発信した。両館の外国語プロシヤをリニューアルし、制作印刷した。		随時	両館
	絵本や子どもの本の専門機関との提携活動	シンガポールのAFCC(Asian Festival of Children's Content)、一環として開催される、BIG2025 (Book Illustrators Gallery 本のイラストレーションギャラリー) のための審査を行った。また、翌年のAFCCでの展覧会に向けて、関係者と打ち合わせを続けた。		随時	両館
	絵本美術館との連携強化	姉妹館である、エリック・カール絵本美術館（アメリカ）と、2027年のそれぞれの館の周年に向けて、共同での展覧会や教育普及活動などの予定や計画の打ち合わせをオンラインで定期的に行った。		随時	両館

カ 絵本等に関する支援活動

絵本の専門家への支援活動	絵本の研究者、絵本作家等への研究・創作支援	絵本の研究を目指す学生、専門家、また、絵本作家等の絵本の専門家を対象に、求めに応じて、それぞれの研究テーマを精査した上で、当財団コレクションの絵本原画、絵本、資料を活かして研究や活動を支援した。		随時	両館
	絵本美術館に関する研究者、専門家等への研究支援	絵本美術館について学ぶ学生や専門家を対象に、求めに応じて、それぞれの研究テーマを精査した上で、当財団の絵本専門美術館の設置・運営に関する経験と実績、資料を活かした研究や活動を支援した。		随時	両館
展覧会鑑賞者・絵本受容者への支援活動	鑑賞者のより深い作品・作家理解のための解説、ガイドブックの作成、並びに画集・複製画の紹介、頒布	NPO法人I am OKの会の企画により、発達支援の専門家厳選した絵本ガイド「子どもの発達応援BOOK!!子どもの心をつかむ絵本」を、「みる、よむ、体験する」ねりまフォーラム実行委員会として協力、発行、頒布した。（文化庁 令和7年度 Innovate MUSEUM事業）		11月～	ちひろ美術館・東京、練馬区内の各図書館、地域子ども家庭支援センター、子育て広場各所
	館内での絵本レファレンス、絵本紹介、読み聞かせ等への支援	絵本の問い合わせ等に随時対応する他、来館者を対象に、求めに応じて、絵本の紹介や、読み聞かせの方法等についてアドバイスを行う等、支援した。（含むオンラインでの配信）		随時	両館
	地域の図書館等の社会教育施設、地元保健センター等の社会福祉施設と提携した絵本の紹介活動と読み聞かせ等への支援	地域の保育園、幼稚園、学校、図書館等の社会教育施設、地元保健センター等の社会福祉施設等と協力し、求めに応じて、絵本の選び方や読み聞かせの方法等についてアドバイスを行い、地域住民が生活の中で日常的に絵本を楽しめるよう支援した。		随時	両館
	展覧会鑑賞のアクセシビリティ向上	東京・安曇野館ともに、日本語を母語としない方や、視覚・聴覚障害をお持ちの方を対象に、スマートフォンからの音声や文字情報による解説を多言語で提供し、利用者のニーズに応えた。また、両館ともに、障害者手帳提示の方と介添え1名までの入館料を無料とするなど、様々なニーズを持つ来館者の展覧会鑑賞を支援するためのアクセシビリティ向上を進めた。 手話を主要なコミュニケーション手段とする方（ろう者、難聴者、中途失聴者等）を対象に、手話通訳つきで、展覧会「装いの翼 いわさきちひろ、茨木のり子、岡上淑子」を学芸員と対話をしながら鑑賞する対話型ギャラリートークを開催した。（東京芸術文化鑑賞サポート助成事業）	15名	2026年1月24日	ちひろ美術館・東京
地域の子育て支援団体との提携活動	地域の子育て支援団体等と提携した絵本の紹介活動と読み聞かせ等への支援	地域の子育て支援団体や保護者らのグループ等と協力し、求めに応じて、絵本の選び方や読み聞かせの方法等についてアドバイスを行い、地域住民が生活の中で日常的に絵本を楽しめるよう支援した。（含むオンラインでの配信）		随時	両館
	発達を支え子どもの世界を豊かにする地域のアートと絵本～体験型シンポジウム～	NPO法人I am OKの会（児童発達支援OKプラネット）の企画で、絵本をはじめとする文化による療育を啓発するシンポジウムを開催した。（文化庁 令和7年度 Innovate MUSEUM事業）	計77名	11月9日	ココネリホール（東京都練馬区）

その他

被災地支援	災害支援の取り組み	東日本大震災等の被災証明や被災証明を提示した来館者は全員無料とした。	東京館 5名 安曇野館 12名	通年	両館
		館内の来館者に対し、震災、豪雨災害等日本各地での被災地支援の義援金を呼びかけた。		通年	両館
無料入館日	高校生以下・18歳以下無料	子どもたちがいつでも訪れることができる場所として、2005年以降実施している高校生以下無料入館の対応を継続するとともに、2023年7月1日より、入館無料の対象を、高校等への在籍の有無を問わず18歳以下に広げた。	東京館 4,096名 安曇野館 9,700名 計13,796名	通年	両館
	無料入館日の取り組み	美術館が人々にとって、魅力的で楽しい場所となるよう、受け入れを工夫し、美術館が社会に果たす役割を高め、より広範の人々にアピールする好機として、右記の通り、両館で無料入館日を設けた。	65歳以上の方対象 東京館 94名 安曇野館 83名	9月15日（敬老の日）	両館
			長野県民 松川村民 対象計338名	長野県民感謝デー： 11月9日 松川村民感謝デー： 2026年3月8日	安曇野ちひろ美術館
支援会員制度等	支援会員（寄付会員）制度等、寄付の取り組み	当財団およびちひろ美術館（東京・安曇野）の理念を積極的に伝え、世界的にも散逸しやすい絵本原画の収集・保存・研究・展示公開、並びに、絵本の普及や国内外での絵本文化支援活動を支えていただく寄付を呼びかけ、支援会員制度他の寄付を受けた。	支援会員数696名 （新規107名・継続589名）	通年	両館

収1

その他この法人の目的を達成するために必要な活動	ミュージアムショップの運営	来館者の展覧会鑑賞がより豊かなものとなるよう、ミュージアムショップの運営を行った。		通年	両館
-------------------------	---------------	---	--	----	----

■2025年度事業報告 入館者数一覧

1. 絵本美術館の設置運営

2025年度の入館者数は、ちひろ美術館・東京36,578名、安曇野ちひろ美術館 77,389名、両館合計で 113,967名となった。

■ちひろ美術館・東京

2025年4月～2026年3月 入館者数内訳（月別）

月	開館日数	有料入館者数		無料入館者数						全入館者数	1日平均入館者数
		大人	小計	中高生	小学生	幼児	支援会員	招待者 その他 無料	小計		
4	27	2,964	2,964	74	148	220	14	373	829	3,793	140
5	24	3,140	3,140	52	274	178	22	422	948	4,088	170
6	25	2,110	2,110	15	79	106	17	259	476	2,586	103
7	24	2,175	2,175	83	94	150	18	453	798	2,973	124
8	28	2,592	2,592	243	247	224	26	328	1,068	3,660	131
9	25	2,047	2,047	33	73	142	19	309	576	2,623	105
10	24	2,565	2,565	47	71	141	30	388	677	3,242	135
11	26	2,470	2,470	32	122	167	15	268	604	3,074	118
12	23	1,568	1,568	12	73	77	23	230	415	1,983	86
1	25	3,151	3,151	38	172	153	23	488	874	4,025	161
2	1	245	245	3	4	13	0	35	55	300	300
3	26	3,332	3,332	71	195	270	24	339	899	4,231	163
合計	278	28,359	28,359	703	1,552	1,841	231	3,892	8,219	36,578	132
構成比		77.5%	77.5%	1.9%	4.2%	5.1%	0.6%	10.6%	22.5%	100.0%	
前年合計		26,547	26,547	715	1,970	2,707	211	5,230	10,833	37,380	134
前年比		106.8%	106.8%	98.3%	78.8%	68.0%	109.5%	74.4%	75.9%	97.9%	97.9%

*2025年度の入館者総数は36,578名（132名/日）。2024年度より802名減少（前年比97.9%）、目標数（45,000人）比8,422名マイナス、達成率81.3%。

*例年通り、敬老の日（9月15日）は65歳以上の方の入館料を無料とした。（94名）

*毎週月曜日を休館日とし、ゴールデンウィークは無休で開館した。

*2026年2月2日から2月28日まで冬期休館、開館日数は278日（2024年度も278日）。

*入館者割合は、大人：中高生：小学生：幼児が、89:2:4:5（2024年度は86:2:5:7）。

*年間パスポート販売数は170枚（510,000円）。利用者数（リピーターを含む）は702名。（2024年度の年間パスポート販売数は121枚、利用者数は495名）

*「ぐるっとパス」入館者数は3,682名（2024年度2,988名、前年比123%）。

*外国人来館者は、年間で615名（前年612名、前年より微増）。

配布プロシヤー言語の内訳は英語50%、韓国語25%、中国語繁体字11%、中国語簡体字14%。（前年度の言語別配布数内訳は英語35%、韓国語42%、中国語繁体字10%、中国語簡体字13%）

■安曇野ちひろ美術館

2025年4月～2026年3月 入館者数内訳（月別）

月	開館日数	有料入館者数		無料入館者数						全入館者数	1日平均入館者数	
		大人	小計	中高生	小学生	幼児	支援会員	その他 無料	松川村 招待者			小計
4	26	4,317	4,317	96	187	220	6	452	149	1,110	5,427	209
5	27	7,770	7,770	494	388	357	8	811	176	2,234	10,004	371
6	23	4,972	4,972	70	152	274	9	476	142	1,123	6,095	265
7	28	8,033	8,033	295	517	428	3	674	161	2,078	10,111	361
8	31	14,709	14,709	1,204	1,580	1,039	11	1,114	236	5,184	19,893	642
9	23	6,650	6,650	113	257	317	10	719	111	1,527	8,177	356
10	26	8,134	8,134	171	328	292	15	899	100	1,805	9,939	382
11	8	2,652	2,652	48	100	98	6	507	70	829	3,481	435
12			0							0	0	#DIV/0!
3	29	2,960	2,960	162	289	224	8	466	153	1,302	4,262	147
合計	221	60,197	60,197	2,653	3,798	3,249	76	6,118	1,298	17,192	77,389	350
構成比		77.8%	77.8%	3.4%	4.9%	4.2%	0.1%	7.9%	1.7%	22.2%	100.0%	
前年合計		63,474	63,474	2,437	4,220	4,355	65	7,662	1,583	20,322	83,796	358
前年比		94.8%	94.8%	108.9%	90.0%	74.6%	116.9%	79.8%	82.0%	84.6%	92.4%	97.8%

※本館屋根防水工事のため2025年11月10日から冬期休館としたため、11月の開館日は8日間のみ。

*2025年度の入館者総数は77,389名（350名/日）。2024年度より6,407名減（前年比92.4%）、目標数（110,000名）比32,611名マイナス、達成率70.4%。

*例年通り、敬老の日（9月15日）は65歳以上の方の入館料を無料とした。（83名）

*毎週水曜日を休館日とし、ゴールデンウィークと8月は無休で開館した。

*11月10日から2026年2月28日まで冬期休館、開館日数は221日（2024年度は234日）。

*入館者割合は、大人：中高生：小学生：幼児が、88:3:5:4（2024年度は87:3:5:5）。

*年間パスポート販売数は87枚（261,000円）、利用者数（リピーターを含む）は270名。（2024年度の年間パスポート販売数は76枚、利用者数は239名。）

*団体入館者数は、419件で6,964名（2024年度は528件で8,474名）、件数前年比79.4%、人数前年比82.2%。入館者全体に占める団体割合は9.0%（2024年度は10.1%。コロナ禍前は18%程度で推移）。

*外国人来館者は、年間で864名。（前年938名、前年比92%）

内、インバウンドの団体は25件で584名（2024年度は30件で684名）、件数前年比83%、人数前年比85%。配布プロシヤー言語の内訳は英語46%、韓国語19%、中国語繁体字25%、中国語簡体字10%。（前年度の内訳は、英語39%、韓国語12%、中国語繁体字42%、中国語簡体字7%）

■2025年度 法人の運営体制の充実を図るための取組

法改正にあわせて、「作品購入準備金積立資産取扱規則」「建物・建物付属設備等取得資金取扱規則」「特定費用準備資金取扱規則」を廃止し、「公益充実資金等取扱規則」を制定した。

■2025年度 事業報告書の附属明細書

当財団の事業報告書については、附属明細書に該当する事項がないため、附属明細書を省略する。